

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 097	提案機関名 (社)神奈川県園芸協会(県果樹組合連合会)
要望問題名 カキ「太秋」の安定生産技術の確立	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 カキ「太秋」は直売向けの大果品種として大変好評で普及されているが、栽培方法ではいくつか解決すべき課題がある。 太秋は、中間花や雄花が多く雌花の着生が少ない。この要因は結果母枝の栄養状態が不十分とも言われている。そこで隔年結果の防止と優良な雌花の確保のため、ナシ栽培に見られる予備枝等の活用による安定生産や人工授粉対策等の効果確認などの技術改善策の検討を要望します。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	果樹花き研究部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 消費者ニーズに合致した果樹有望品種の安定生産技術の確立 直売向けカキ有望品種の安定生産技術の確立 ‘太秋’の安定生産技術の確立			
対応の内容等 ‘太秋’の課題である安定着果技術については、仕立て技術の違いが安定生産に及ぼす影響を調査中です。‘太秋’の開心自然形(14年生)および斜立並木仕立て(13年生)の木において、摘蕾摘果、着果管理を同様に行うことにより、着果数、収量、品質に及ぼす影響を調査しており、安定生産技術に必要な栽培管理について情報提供いたします。 また、平成21年度より開始された共同研究「果樹ジョイント」の中で、福岡県が‘太秋’のジョイント栽培に取り組んでおり、水平主枝に直接着生させる側枝の剪定法などについて検討しています。本研究で得られた知見を‘太秋’の安定生産技術の確立に応用させることもできるものと考えます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			